

# Patent Abstracts of Japan

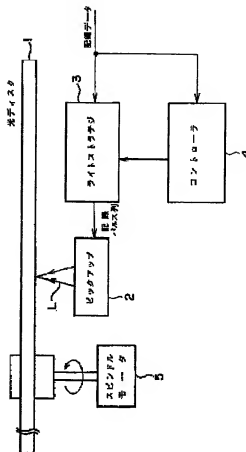
PUBLICATION NUMBER : 2000057571  
PUBLICATION DATE : 25-02-00  
APPLICATION DATE : 08-08-98  
APPLICATION NUMBER : 10236531

APPLICANT : VICTOR CO OF JAPAN LTD;

INVENTOR : YANAGISAWA OSAMU;

INT.CL. : G11B 7/00

TITLE : OPTICAL DISK RECORDING DEVICE



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an optical disk recording device which can form more appropriately a shape of a pit of an optical disk.

SOLUTION: This device is an optical disk recording device which records recording data by irradiating a recording surface of an optical disk 1 with a laser beam in accordance with a recording pulse train made by recording data. Further, the device has an adjusting means 3 adjusting pulse width of a recording pulse train based on length of blank directly before recording data and length of recording data directly before of recording data. Thereby, a shape of a pit of the optical disk can be made more appropriately.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

(51) Int.Cl.<sup>7</sup>

識別記号

F I

テーマコード(参考)

G 1 1 B 7/00

C 1 1 B 7/00

L 5 D 0 9 0

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平10-236531

(22) 出願日 平成10年8月8日 (1998.8.8)

(71) 出願人 000004329

日本ビクター株式会社

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地

(72) 発明者 柳沢 修

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地 日本ビクター株式会社内

(74) 代理人 100090125

弁理士 浅井 卓弘

Fターム(参考) 5D090 AA01 BB04 CC01 DD03 DD05

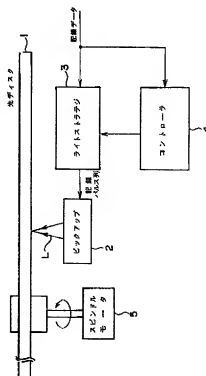
EE02 KK04 KK05

(54) 【発明の名称】 光ディスク記録装置

(57) 【要約】

【課題】 光ディスクのビット形状をより適正に形成することができる光ディスク記録装置を提供する。

【解決手段】 記録データに基づいて作成された記録パルス列に応じたレーザ光を光ディスク1の記録面に照射することにより、記録データを記録する光ディスク記録装置であって、前記記録データの直前にあるブランクの長さ及び当該記録データの直前の記録データの長さに基づいて、前記記録パルス列のパルス幅を調整する調整手段3を有するように構成する。これにより、光ディスクのビット形状をより適正に形成する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 記録データに基づいて作成された記録パルス列に応じたレーザ光を光ディスクの記録面に照射することにより、記録データを記録する光ディスク記録装置であって、前記記録データの直前にあるブランクの長さ及び当該記録データの直前の記録データの長さに基づいて、前記記録パルス列のパルス幅を調整する調整手段を有することを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項2】 記録データに基づいて作成された記録パルス列に応じたレーザ光を光ディスクの記録面に照射することにより、記録データを記録する光ディスク記録装置であって、前記記録データの直後にあるブランクの長さ及び当該記録データの直後の記録データの長さに基づいて、前記記録パルス列のパルス幅を調整する調整手段を有することを特徴とする光ディスク記録装置。

【請求項3】 記録データに基づいて作成された記録パルス列に応じたレーザ光を光ディスクの記録面に照射することにより、記録データを記録する光ディスク記録装置であって、前記記録データが記録されるべきトラックに隣接するトラックの記録データの有無に応じて前記記録パルス列のパルス幅を調整する調整手段を有することを特徴とする光ディスク記録装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、光ディスクに対してデータを記録することができる光ディスク記録装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 一般に、記録可能な光ディスクの方式としては、何回でもデータの書き換えが可能なリライタブル (Rewritable) と、一度だけ書き込みができるライトワンスがある。光ディスクの一例としてのCD (Compact Disc) ではパソコン用途として主にライトワンス (CD-R) 方式が普及している。そして、DVD (Digital Versatile Disc) についても同様にライトワンス方式 (DVD-R) の普及が考えられる。ライトワンス方式であるDVD-Rにて記録を行なうとき、周辺の残留熱によってビット長等が予期した値からずれることが行なわれるために記録波形に工夫が施されている。例えば記録したいデータをそのまま光ディスクに書き込もうとすると、記録のためのレーザ光の照射時間が必要以上に長くなって、オーバーパワーとなり、ビット長が長くなり過ぎるなどしてビット形状に悪影響を与えてしまう。そこで、記録波形を図3に示すように複数 (図示例では2つ) のパルスよりなるライトパルスとしてパルス間に冷却期間を置き、ビットの形状を整えることが行なわれている。その記録波形はディスク規格により波形が定められている。

【0003】 図示例では4T (T: チャネル周期) の長さ

の記録データTwdに対応させて、このうち3Tまでを先頭パルスTtop1で形成し、残りの1Tを後続パルスTmp1として記録パルス列を形成している。記録データTwdの長さが長くなれば、後続パルスTmp1の数を順に増加してマルチパルス化して行く。ここでTは基準クロック長である。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、記録においてビットが作られるとき、その直前にビットを作る際に生じた余熱のため、記録方向におけるビット相互間のブランク長に依存する冷却時間がビット形成に影響を与えることは既に知られている。上述のように、記録データPwdの長さTwdに対応させて定期的に記録パルス列を規定すると、直前のビット形成時の余熱により悪影響を受ける場合がある。そこで、特開平6-314429号公報等に開示されるように、例えば記録ビットの直前のブランク長が短い場合には記録パルス列中の先頭パルスTtop1の幅Ttop1を短くしたり、或いは記録ビット直後のブランク長に対応させて後続するマルチパルスPmp1の幅Tmp1を変えるなどして、記録パルス列を調整し、これにより最適なビットを形成して良好な記録特性を得る試みが行なわれている。

【0005】 例えば、この従来のパルス幅調整方法では、記録データPwdの直前のブランクの長さにあたるブランク長Tsp1-1を調べる。このブランク長Tsp1-1が短い場合、例えば3Tの場合には、そのブランクの更に直前にデータとして記録したときのビットの余熱が影響し、4Tの長さの記録データを記録しているにもかかわらず先の余熱によってビットが長くなって予期していたビット長と違う長さで記録されてしまうことがある。そこで、その分、先頭パルスTtop1の幅Ttop1を短くしてTtop1'とし、余熱の影響を受けないようにする。或いは、記録すべき記録データの直後のブランクの長さにあたるブランク長Tsp1+1を調べ、これが短いときにはその記録パルス列のうちの後続パルスPmp1の幅Tmp1を短くしてTtmp1'とすることが行なわれている。

【0006】 しかしながら、このように直前或いは直後のブランク長だけに基づいて記録パルス列のパルス幅を調整しても、ビット形成時の余熱の悪影響を完全には除去できない場合があった。特に、記録速度の向上及び記録密度の向上が強く要請されている現状においては、上記問題点の解決が強く望まれている。本発明は、以上のような問題点に着目し、これを有効に解決すべく創案されたものであり、その目的は、光ディスクのビット形状をより適正に形成することができる光ディスク記録装置を提供することにある。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】 請求項1に規定する発明は、記録データに基づいて作成された記録パルス列に応

じたレーザ光を光ディスクの記録面に照射することにより、記録データを記録する光ディスク記録装置であって、前記記録データの直前にあるブランクの長さ及び当該記録データの直前の記録データの長さに基づいて、前記記録パルス列のバース幅を調整する調整手段を有するものである。請求項2に規定する発明は、記録データに基づいて作成された記録パルス列に応じたレーザ光を光ディスクの記録面に照射することにより、記録データを記録する光ディスク記録装置であって、前記記録データの直後にあるブランクの長さ及び当該記録データの直後の記録データの長さに基づいて、前記記録パルス列のバース幅を調整する調整手段を有するものである。

【0008】請求項3に規定する発明は、記録データに基づいて作成された記録パルス列に応じたレーザ光を光ディスクの記録面に照射することにより、記録データを記録する光ディスク記録装置であって、前記記録データを記録されるべきトラックに隣接するトラックの記録データの有無に応じて前記記録パルス列のバース幅を調整する調整手段を有するものである。

【0009】このように、現在記録すべき記録データの直前或いは直後のブランク長のみならず、その更に直前の記録データの長さ或いはその直後の記録データの長さに応じて、または記録データに隣接するトラックの記録信号の有無の状況に応じて現在記録すべき記録データの記録パルス列のバース幅を調整するようにして、直前のビットの形成時における余熱や隣接トラックにおけるビット形成の余熱の影響をほとんど受けることがない。また、直後の記録データの形成時に熱的に悪影響を与えることもない。従って、記録データに対応した適正な形状のビットを形成することができる。

【0010】

【発明の実施形態】以下に、本発明に係る光ディスク記録装置の一実施例を添付図面の基づいて詳述する。図1は本発明に係る光ディスク記録装置を示す概略ブロック構成図、図2は記録データとその時の記録パルス列の関係を示す波形図である。図中、1は情報（データ）が記録される光ディスクであり、これはスピンドルモータ5によって所定の回転数で回転される。2はピックアップであり、これよりレーザ光1を光ディスク1の記録面に照射することによりビットを形成し、データを記録する。3は調整手段としてのライトストラテジであり、これに入力される記録データ（図2（A）参照）に基づいて図2（B）に示すような記録パルス列を作成して、この記録パルス列をピックアップ2へ供給するものであり、この記録パルスのオン・オフに基づいてピックアップ2のレーザ光1のパワーの切り換え（強・弱）制御が行なわれる。

【0011】4はコントローラであり、この装置全体の動作の制御を行なう。上記ライトストラテジ3は、現在記録すべき記録データ（ここでは一連のシリアルな流れ

のパルス列を指すのではなく、単独の1つのパルスを指す）の直前にあるブランクの長さ及びその直前の記録データの長さの少なくとも2つの要素に基づいて記録パルス列のバース幅を調整するようになっている。

【0012】次に、以上のように構成された装置の動作について説明する。図2（A）に示すように例えばDV Dの記録データは、所定の長さのパルスとブランクの繰り返しとなっており、パルス幅は3T～11T、14Tの10種類となっている。図2（A）に示す場合には、記録データPdt1-1、Pwd、Psp1-1の順序で記録され、現在、記録データPwdを記録するところである。ここでTは基準クロック長である。そして、パルス状の記録データの長さ（パルス幅）に応じてレーザ光1のパワーを強・弱に制御する記録パルス列（図2（B）参照）を作成している。この記録パルス列は、先頭パルスPtop1とこれに続く後続パルスPmpよりなり、後続パルスPmpは、記録データのバース幅が長くなればそれに応じて複数個連続的に形成されてマルチパルス化される。図示例では現在記録すべき記録データPwdが4Tの長さであり、これに対応する記録パルス列は先頭パルスPtop1と1つの後続パルスPmp1とよりなる。従って、記録データPwdが4Tよりも長い場合には、後続パルスはPmp1、Pmp2、Pmp3...のように複数個形成されてマルチパルス化される。

【0013】ここで、実施例では、記録パルス列を作成する際に、現在記録すべき記録データTwdの直前のブランクの長さTsp1-1とその直前の記録データPdt1-1の長さTdt1-1を参照し、これに基づいて記録パルス列の先頭パルスPpwdの幅を調整して基準となるパルス幅よりも例えば短くしてTtop1にすると共に、後続パルスPmp1の幅を調整して基準となるパルス幅よりも例えば短くしてTm1としていた。この場合、直前のブランクの長さTsp1-1の長さが短くなる程及びその直前の記録データPdt1-1の幅Tdt1-1が長くなる程、現在記録すべき記録データPwdに対する余熱が多くなる傾向にあるので、上記記録パルス列の先頭パルスPpwdの幅Ttop1や後続パルス、例えばPmp1の幅Tm1の減少率を大きく設定し、よりパルス幅を短くして余熱の影響を受けないようにする。ここで、記録データPwdのバース幅が4Tよりも大きくてPmp2（図示せず）以降の後続パルスが存在する場合には、これらの後続パルスのバース幅も同様に短く設定する。これにより、当該記録データの記録時に直前のビット形成時における余熱の影響をほとんど受けることがなくなるので、光ディスク1に形成されるビットの形状を適正化することが可能となる。

【0014】また、光ディスク1の回転速度が、より速くなるなどして直前ビット形成時の余熱の影響を受け易くなった場合には、直前の記録データPdt1-1の更

に直前のブランクの長さやその直前の記録データPdt1-2 (図示せず) の長さ (パルス幅) 等も参照して記録パルス列のパルス幅を調整するようにしてもよい。ここでは、直前のブランクの長さTsp1-1とその直前の記録データPdt1-1のパルス幅Tdt1-1とに基づいて記録パルス列のパルス幅を調整する場合について説明したが、これに替えて、或いはこれに加えて現在の記録データTwdの直後のブランクの長さTsp1+1とその直後の記録データPdt1+1のパルス幅Tdt1+1とを参照して記録パルス列のパルス幅を調整するようにしてもよい。

【0015】例えば、直前のブランク長Tsp1-1や直前の記録データのパルス幅Tdt1-1に替えて、直後のブランク長Tsp1+1や直後の記録データPdt1+1のパルス幅Tdt1+1を参照する場合には、直後のブランク長Tsp1+1が短い程、そして、直後の記録データのパルス幅Tdt1+1が長い程、直後の記録データPdt1+1を記録する時に、当該記録データTwdの記録時の余熱の影響を与えてしまうので、記録パルス列の先頭パルスPtop1のパルス幅Ttop1<sup>1</sup>及び後続パルス、例えばPmp1のパルス幅Tmp1<sup>1</sup>を短くする。これにより、直後の記録データPdt1+1の記録時に余熱の影響が及ぶことを防止して適正な形状のビットを形成することができる。

【0016】また、直前のブランク長Tsp1-1や直前の記録データのパルス幅Tdt1-1に加えて、直後のブランク長Tsp1+1と直後の記録データのパルス幅Tdt1+1も含めて参照してこれらに基づいて記録パルス列のパルス幅を調整する場合には、余熱の影響が及ぶことを更に抑制することができるので、一層適正な形状のビットを形成することが可能となる。更に、上記実施例では、現在記録すべき記録データの直前、直後のブランク長や記録データのパルス幅を参照してこれらに基づいて記録パルス列のパルス幅を調整するようにしたが、これらに替えて、或いはこれらに加えて現在記録す

べき記録データが記録されるべきトラックに隣接する記録済みのトラックの記録信号の有無に応じて記録データの記録パルス列のパルス幅を調整するようにしてもよい。

【0017】特に、隣接トラックの記録信号の有無に關する情報も加味して記録パルス列のパルス幅を調整するようにすれば、隣接トラックからの余熱の影響に対しても配慮することができ、記録データのビット形状を更に適正化することができる。尚、上記実施例では記録データとしてDVDによる記録データを例にとって説明したが、これに限定されず、CD等の他の光ディスクの場合にも本発明を適用できるのは勿論である。

【0018】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の光ディスク記録装置によれば、次のように優れた作用効果を発揮することができる。現在記録すべき記録データの直前のブランク長と直前の記録データの長さ、或いは現在記録すべき記録データの直後のブランク長と直後の記録データの長さ、または、現在記録すべき記録データに隣接するトラックの記録信号の有無の状況に応じて、現在記録すべき記録データの記録パルス列のパルス幅を調整するようにしたので、ビットの形状を適正に形成することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る光ディスク記録装置を示す概略ブロック構成図である。

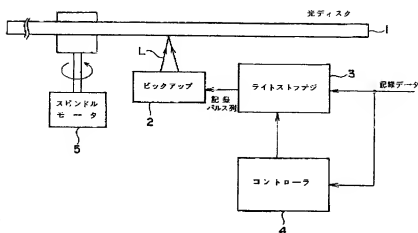
【図2】記録データとその時の記録パルス列の関係を示す波形図である。

【図3】従来の光ディスク記録装置における記録データとその時の記録パルス列の関係を示す波形図である。

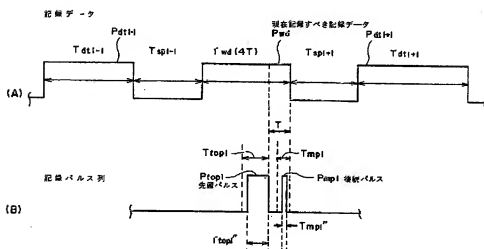
【符号の説明】

1…光ディスク、2…ピックアップ、3…ライトストレーテジ (調整手段)、4…コントローラ、5…スピンドルモータ、L…レーザ光。

【図1】



【図2】



【図3】

